二科

秋季

No.85　contents

2　第109回二科展
3　〈絵画〉第109回二科展 展示イメージと審査 〇人寄れば文殊の知恵
4　〈絵画〉審査所感―109回展会場にて　支援講座・ワークショップ
5　〈絵画〉第109回二科展 受賞作品―制作の視点
6　〈絵画〉私の選ぶ作品寸評―第109回会場から
8　〈絵画〉新会員紹介
〈絵画・彫刻〉第109回二科展 受賞者
9　〈彫刻〉総評
10　〈彫刻〉第109回二科展 受賞作品―制作の視点　新会員紹介
11　〈彫刻〉第109回二科展 受賞作品寸評
12　event memo
14　ローマ賞 研修報告　第109回二科展 巡回展スケジュール
15　2026春季二科展へ向けて
「NIKA+nika/S20号」最優秀賞 笹島裕美会友インタビュー
2025春季二科展 選抜出品予定者　二科ショップ・チャリティー報告
16　訃報　事務局だより　編集後記

発行人：生方 純一　発行：公益社団法人 二科会
www.nika.or.jp
TEL：03-3354-6646
E-mail：nika@nika.or.jp

109TH NIKA ART EXHIBITION 2025

絵画部 審査会　2025年8月25日

第109回二科展

生方 純一

異常気象と言われた2025年の第109回二科展は、制作の時期から搬入・審査、展示、開催期間中も例年を大幅に超えた猛暑。秋の気配は微塵も感じられず、出品者はじめ関係者も大いに体力を消耗しました。そうした環境の中でも出品者の制作意欲は衰えず、出品者数は昨年同様でした。

コロナ禍も少し残り、少子高齢化の進む中で環境は芳しくないのではないかと案じていましたが、パワフルな二科の出品者の意欲には感じ入りました。各支部の関係者の率先した指導なども大きな要因であることに相違ありません。

109回展は展示委員や事務局関係者による事前の緻密なプランにより、会場は大変見やすく、見応えのある展示になったと思います。特にU35コーナーや動物をモチーフにした作品を一堂に集めたアニマルコーナーなども設け、人気を博しました。また、このコーナーでは前半の期間に一般入場者による人気投票でオーディエンス賞を決めました。

1階、2階、3階と会員、会友、一般と展示作品の傾向毎に分けて部屋割するとともに、休憩室を活用した有機的な展示ができたと思います。

彫刻部の巡回展に回す作品の披露目展示、チャリティ作品や作品集・絵ハガキの販売コーナー、全国支部の活動の様子が解る地図やポスター、案内状などを展示。また春季展でのS20号の優秀作品を展示するなどして大いに活用されました。

109回展は審査による授賞作品の点数が例年に比べて少なめでしたが、それだけに充実した作品を選ぶことができました。同じく会員・会友の推挙も少なめでしたが、期待できる作家を推挙することができたと思います。

入場者数は少し減ったが昨年同様の盛況であり、特に外国人の入場者が目立ちました。海外では余り団体展がないので、多くの人が興味深く鑑賞している様子が窺われました。

関係者は本年の反省を踏まえて、すでに第110回記念二科展への備えを始めています。

第109回二科展
展示イメージと審査　〇人寄れば文殊の知恵

山中宣明

第109回展も酷暑の中滞りなく無事盛会裏に終了し、最終日には4部門の代表からもご挨拶いただき、生方理事長から大入り袋も配られ、来年の110回記念展成功に向けての決意を新たにしました。審査から展示までご協力いただいた会員の皆様・事務局・広報部のSNS等様々な発信のおかげと、展示担当委員一同感謝申し上げます。

展示も入場者や美術関係者にもすっきりと見やすく、見応えがあったとの高評価「いいね」の感触を得ました。理事長はじめ展示委員・前展示委員・地方在住のモニター委員等を交え展示前に第109回の展示の方向性やアイデアを募る展示会議を開催し、忌憚のない意見や前向きな改善案をいただき、展示に生かしたことが功を奏したと思います。まさに多くの意見を結集した〈文殊の知恵〉からでた提案は〈まずやってみる〉ことが活性化につながると痛感しました。

9月2日　会員集合
会場構成説明を受け、担当展示室へ

実例として意見を基に2点入選を横に2点並べたのも初めてのトライアル、9室会部屋の改善、50号選抜部屋、3階の最終部屋20室のリニューアルなども展示に変化と膨らみが出たと思います。

最終日には理事長、理事、展示委員が会場を一巡し、110回に向けての改善課題を検討いたしました。

幸いにも感染者もなく会員全員による審査が実施され、例年通り挙手や投票により入選数・受賞者数・推挙数等が決定し、審査会総意による結果は何よりも尊重されるべきものです。審査結果は必ず当該年の展示や、入場者、全国支部の活性化、会の運営等にダイレクトに反映されるものであり、また次年度の出品者数とも確実に相関します。

あくまでも絵画部の展示の観点から検証してみますと、審査結果数を基に中島常務理事はじめ展示委員でより良い展示をめざして展示計画を立てましたが、今年度は一般入選数が30人減、2点入選59人減、受賞者（推挙含む）が28人減、特に特選は昨年の29人から4人に、2点入選も85人から26人に減ったことで、各部屋の柱となる受賞者や2点入選者の見せどころ作りに苦慮し、展示工夫が例年以上に必要だったことは否めません。

すっきりと見せることと、活性化に繋がる出品者のエネルギー・熱意を見せる展示は相反する大変難しい面がありますが、両面を生かし「陳列」ではなく作品を生かす「展示」にすることが最重要課題です。

今後も展示効果や来年度の出品状況の相関を検証しながら適正数を皆さんで模索していきたいと思います。やはり会員全員がある程度共通の展示イメージを持って審査することが肝要であると痛感しました。

各階各部屋の特徴付けとしては、

1階
5・8室／大作
10室／抽象
11室／9室会継承
12室／具象
13・14・15室／会友選抜

2階　会友
4室／具象
8室／抽象
9・10・11・12・13室／一般選抜

3階　一般
2室／具象
4室／50号選抜
10室／抽象
11・12室／U35
18室／初入選選抜
19室／アニマルルーム
20室／次世代を担う作家達

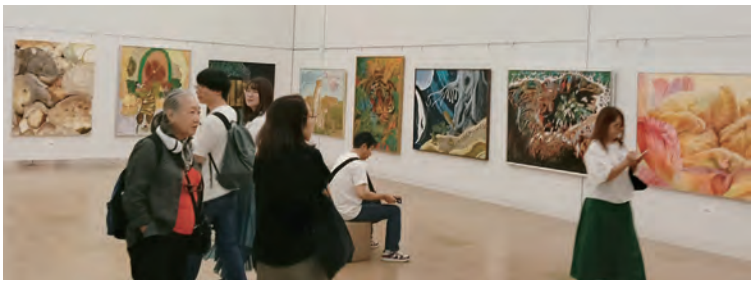
休憩室の全国支部活動地図、S20号特別展示、オーディエンス賞などの新企画も好評でしたので、発展的に継続が望まれます。

最後に二科展らしい展示を皆さんの意見・力を結集して構築していきたいと思いますので、ぜひ建設的な意見・アイデアをお願いして、報告とさせていただきます。

3F オーディエンス賞投票箱　受賞・鈴木悠大さん

絵画部 2階 1室

絵画部 3階 11室　U35奨励室　ユースの会


絵画部 3階 19室　アニマルルーム選抜室

審査所感―109回展会場にて

粕谷正一

今から50年前、私が美大を目指して浪人していた頃、東京芸大油絵科の倍率は40倍だった。現在は少子化の影響もあり、倍率は当時と比べると私立の美大も含め、半減している。小中高の全てで、美術の授業が半減されてから久しいが、さらに美術部他すべての部活動が、この数年で学校から無くなり、地域に移行することになっている。児童生徒は美術を学ぶ機会がどんどん減っているのである。

近年の美大油絵科では、映像やインスタレーション等の卒制も認められ、若者の絵画離れは加速している。また、二科の場合はU35という配慮もあるが、出品料その他もろもろの問題で団体展出品に二の足を踏む若者も多く、何のしがらみもないコンクールに一攫千金狙いで出品する学生もいる。

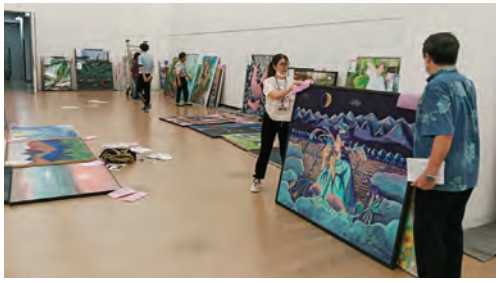
今年の審査で驚いたことは、特選がたった4人にとどまった事。106回展は22人。107回展は26人、108回展は29人と多くの出品者が特選の栄誉に輝いていた。二科小史を遡ってみると第45回(1960年)二科展が4人の特選と記されていた。当時は作品のサイズは小さく出品者数も少なかったと想像できる。今年の特選が少なかったのは、おそらく技法的には問題ないが、二科の雰囲気に埋没した作品やオリジナリティが感じられない作品、以前の出品作と代わり映えしない作品などが多かったからなのだろうか。

一般の部の109回展を観て、気になる作家をあげる。津野勝己《確かな描写力である。奥行きが欲しい》、羽根杏綸《写実的な描写力がある。オレンジの色面が目立ちすぎ》、濱川知世《何気ない風景の空気感が見事》、岡田礼子《子どもの表情が面白い。上部の亀が目立ちすぎ》、土肥研二《構成力がある。左下の白が未完成》、佐久間りん《テーマははっきりしている。主役だけではなく、脇役も必要か》、前岡千春《インパクトはあるが、色面の整理を》。

最後に今年の春季展やS20号出品者の中から本展で会員、会友の推挙者や受賞者が複数誕生したことに、二科会の光明が見えた気がした。

110回記念展には今一歩踏み出した作品を期待したい。

審査風景


3Fにて展示会場構成

支援講座・ワークショップ
9月14日　13:30～
3階講堂

中原史雄
「頑張らない、けど前を向く」

「頑張らない、けど前を向く」

中原史雄

絵画表現の面倒なところは、描いた自作をなかなか客観的に見られないこと。にもかかわらず、他の人のそれは良くわかるのだけれど。また、頑張って描いても、結果が伴うとは限らない。逆に描き過ぎて画面を重くしたり、整え過ぎてリズムを失くしてしまうことも。二科展に60年以上出品している古狸になると、描いた人から作品のコメントを求められることが多く、上手に描けないとか、私は才能が無いのでは、などの相談を受けることもある。

そもそも絵画の表現とは、自分の複雑な心の襞を色と形で具現化すること、しかも個性的であることが大切。また、理屈では計れない感覚の仕事で、何とも難儀としか云いようがない。だが魅せられた以上はポジティブに手を動かして、自分の表現を探るしかないようだ。

ずっと以前、私が美術大学で受けたアカデミックな教育は、その頃の美術界の動向だった抽象表現とかアンフォルメルといった激しいものとあまりにも乖離していた。何をどう描けばいいのだろうか、自分の表現が定まらず、思い悩む日々が続き、いっそ描くことを止めようと思ったことも。しかし、この頃の苦い体験が「ダメ元」という都合のいい思考を私に与えてくれ、いま制作の大きな糧となっている。

キャンバスの中は自分だけの宇宙空間、誰に頼まれるでもなく絵筆を持っている。何でも効率を求められる今日この頃、役に立つとも思えぬことにのめり込んでいる。こんな素敵で贅沢な時間はない。そう思えたら、また新たな気持ちで描けるのではないか。

今回の支援講座でうれしかったのは、参加した90名の中に数名、第109回展の落選者がいたこと。老体にムチ打ってでも語りたかったのは、なかなか結果がついてこないと思っている人達に、決して才能の有無ではなく意識の持ち方次第、自分の中の新しさに「まあ、ええやん！」とトライする、つまり前を向く姿勢です。

第109回二科展 受賞作品 ― 制作の視点

■内閣総理大臣賞　卓上のものたち　182×273

内閣総理大臣賞
北村 美佳

日常目にしているモチーフを描きながら、古材がもつ記憶と向き合った心地良い制作でした。マテリアルの存在感に陶酔しすぎないよう、古材と交互にはめ込んだパネルの無機的な表情を対比させることで時空を行き来し、今の私の存在についても探究しました。

■東京都知事賞　春風　F200

東京都知事賞
茶谷 弥宏

真新しい高架。
広がる田園。
うねる枝。
春風に未来への希望を
託し若者たちは今日も
日常に流されながら
自分らしく生きていく。
形と色を組み合わせて
表現を手探りしながら
構成を工夫しました。

■上野の森美術館奨励賞
Shopping Street 5　F100　楠本 加津江

■SOMPO美術館賞　ひらけ初む
F100　猪立山 三鈴

■パリ賞　森の幻想　F100
瀬川 ゆかり

■二科賞　大地のシンフォニー. Ⅱ
F100　大山 カリーナ

■新人奨励賞　懐抱　F100
山田 美衣奈

■新人奨励賞　海底散歩
F100　小林 ゆい

■二科新人賞　誕生　F100
竹川 美里

第109回二科展
受賞作品

私の選ぶ作品寸評―第109回会場から

2F 寺田　3F 須田　3F 吉田

風の街(2)　水野 興三

方船―宙へⅡ　川畑 清美

明けゆく空　岡山 芳彦

水野 興三

箱庭を見るような面白さ。茂みの緑や屋根、壁の配色も落ち着いていて魅力的。中央の黒い建物に対して通路が明るく抜いてあるのが効いて画面を引き締めている。独特な味わいのある作品。（寺田 眞）

川畑 清美

離れて見ると抽象のように見えて面白い。現在、過去、未来なのか、そうした様々な情景、想いが落ち着いた赤いトーンの作品として紡がれている。細部は何が描かれているのか興味を抱かせる。放射状にアクセントが入っていて作品を大きく見せている。（寺田 眞）

岡山 芳彦

山の風景が多いが、今回は奥へと続く道。懐かしい風情、空、雲の描き方、色づかいに特徴がある。様々な趣向を凝らした結果、どこか押しつけがましい作品が多い中、自然と向き合うことが出来るこうした作品も良いのではないかと思う。（寺田 眞）

Next　安坂 伸司

光の向こう　上園 育美

清流に咲く梅花藻の下で　徳永 万里子

安坂 伸司

古びた廃墟か、どこか骨格の一部のようにも見える。縦、横の動きで画面を安定させ凹凸や窓のような形でアクセント、変化をつけている。周囲の背景の空け方、中央を白く他は明度を抑えた丁寧な画面作りが印象に残った。（寺田 眞）

上園 育美

森の中の小道を走り抜けて行く子供は半透明に表現され、その先には野原が広がり光が差している。この作品は過ぎ去りし日の出来事を描いたのでしょう。走り去った子供の残像は、繊細な緑の色調で静まり返った森を表現した風景を一層際立たせ面白い作品になっている。（須田 美紀子）

徳永 万里子

昔、道路と田んぼの間の川に梅花藻が沢山あった。太陽の光を浴びて咲く白い花はとても美しく感動し心ふるえた事を思い出す。冷たい水の中で揺らぐ梅花藻の中に作者自身と思われる人物が一人。作品全体柔らかな曲線で表現されていて、見る者を幸せな気分にさせる。（須田 美紀子）

私の選ぶ作品寸評―第109回会場から

2F 寺田　3F 須田　3F 吉田

そこへ　　烏田　恵

創世の闇　　髙橋 美樹

北の開拓地　　伊藤　茂

烏田　恵

高台から遠くを見渡す風景は、緑を基調にスピード感のあるタッチで表現されています。空には三羽の鳥が風に乗り飛んでいる、不思議な雰囲気と自然が持つ生命的な波動を感じる事が出来る面白い作品ですが、できればもう少し遠近感と明暗の対比を工夫してみてはいかがでしょうか。

（須田 美紀子）

髙橋 美樹

神様が光と対比させて創造された闇。その闇のイメージを夜明け前の空に光る三日月と、もくもくと湧き上がる雲で表現。三日月の光は、その雲を力強く煌々と照らし、見る者を不思議な世界へと導く。

（須田 美紀子）

伊藤　茂

遠い日にどこかで見た風景。この大地の人家を描きたい気持ちがよくわかる。全体がリアリティーを演出し、マチエールを重厚にすることで冬の大地の雪と共に耐え抜く心情表現がよく出ている作品。手前に轍や足跡など有るとどうか？

（吉田 清光）

ニワトリの情景　　中村 武利

早春　　小澤 篤子

桜の咲く頃　　斉藤 孝恵

中村武利

F50号の中に地鶏が数羽庭先で遊ぶ様子を細部までよく描き込んだ作品。羽毛の明暗は良いが、グレーの数を増やし、メスの体の影にはやわらかな中間色が必要かと思う。50号以上の広がりのある構図に期待。

（吉田 清光）

小澤 篤子

全体に白からブルーのグラデーションで、早春の雪を溶かすような構図。画面右の縦に配されたグリーンや暗い部分のブルーの混色には苦心の跡が窺える。補色のオレンジやレッドを入れたら、より深い味わいや変化が出せると思う。

（吉田 清光）

斉藤 孝恵

全体にハーフトーンで淡い色調表現。画面の色に幅があると奥深さが加わる。白い服はグレーから黒へのトーンの変化、花びらもピンク単色ではなく白～赤、四方のセピアにも色調を。上方の建物は右上に移動し暗くすると構図に動きが出ると思う。

（吉田 清光）

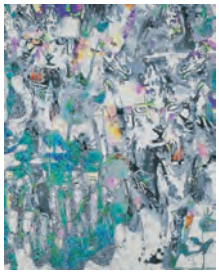
絵画部 新会員紹介

ひらけ初む

猪立山 三鈴

植物に生命力を託して描く姿勢を大切に、先生方に感謝し二科会会員として心を照らす絵を深めていきます。

第102回 特選／第104回 会友推挙
第105回 会友賞
第109回 SOMPO美術館賞・会員推挙



Street Cats 2

日比野 恵美

印刷の色彩表現を手描きのみで再現。デジタル処理の様な多彩な表現方法に、今後も挑戦していきたい。

第102回 損保ジャパン日本興亜美術財団賞
第104回 パリ賞・会友推挙
2022春季展 5つの個出品
第107回 会友賞／第109回 会員推挙

Wonderland

笹島 裕美

生活の中で感じた感覚を題材に、現在子育てをしながら制限もありますが刺激をもらい制作しています。

第92回 特選／第95回 会友推挙
第107回 会友賞
2025「NiKA+nika/20号」コンクール最優秀賞
第109回 会員推挙

線の解放(Ⅱ)

黒川 壽子

色々な線で自由に楽しく、独自の絵を目指して描いています。

第102回 特選／2018春季賞
第104回 会友推挙／第106回 会友賞
2023春季賞
第107回 上野の森美術館奨励賞
第109回 会員推挙

空蝉の夢Ⅰ

さとう のりこ

蓮に魅せられっぱなしの30年。未だに描き足らない気持ちなので、これからも描き続けてゆきたいです。

第97回 特選／第98回 会友推挙
第99回 会友賞／第109回 会員推挙

anima～とびらのむこう

森山 麗子

音が流れている：
匂いがする：
声が聞こえる：
そんな絵が画きたいです

第105回 特選／第106回 会友推挙
第107回 二科賞
2024春季展 3つの個出品
第109回 会員推挙

第109回二科展 受賞者

内閣総理大臣賞 北村 美佳［滋賀］
文部科学大臣賞 西村 貞雄［沖縄］
東京都知事賞 茶谷 弥宏［石川］

（絵画部）

二科賞
大山 カリーナ［宮城］

パリ賞
瀬川 ゆかり［京都］

SOMPO美術館賞
猪立山 三鈴［福岡］

上野の森美術館奨励賞
楠本 加津江［大阪］

会員賞
明石 里美［東京］
上石 直美［福島］
稲増 克彦［奈良］
小原 禎二［神奈川］
村上 雅洋［静岡］
柳田 邦男［富山］

会友賞
朝岡 幸子［茨城］
奥州谷 啓子［東京］
小野寺 さゆり［宮城］
田村 忠男［新潟］
服部 由美子［東京］
前田 友幸［鹿児島］
水谷 奈穂子［三重］
横山 杏子［新潟］

特選
加藤 千保子［宮崎］
白石 一宏［宮城］
杉森 修［栃木］
中村 たみ子［宮城］

二科新人賞
竹川 美里［北海道］

新人奨励賞
小林 ゆい［山梨］
山田 美衣奈［石川］

会員推挙
猪立山 三鈴［福岡］
黒川 壽子［千葉］
笹島 裕美［石川］
さとう のりこ［神奈川］
日比野 恵美［愛知］
森山 麗子［兵庫］

会友推挙
大蔵 千鶴［石川］
金子 豊実［埼玉］
楠本 加津江［大阪］
澤登 千代子［千葉］
福岡 侑恵加［愛知］
前友 洋［東京］
益原 礼子［広島］
丸田 洋一［千葉］
御手洗 毅［神奈川］
三輪 修［宮崎］

（彫刻部）

二科賞
該当者なし

ローマ賞
日置 万里［東京］

彫刻の森美術館奨励賞
友國 華［大阪］

会員賞
本多 紀朗［大阪］

会友賞
与島 雪［富山］

特選
梅田 勝裕［東京］
笹井 南海［石川］
吉田 香世［沖縄］

会員推挙
岩崎 花菜子［東京］
丸山 恵美［新潟］

会友推挙
岩瀬 公子［新潟］
梅田 勝裕［東京］
保坂 航子［埼玉］

彫刻部　集合写真

彫刻部　総評

吉野　毅

気候に変動が起きたような猛暑から、美術館に入ると、心地の良い空間にホッとして救われたような気分になった。

第109回展の総評のはじめに標したいのは、陳列をするため作品が搬入された場所から、作品を移動するときに起きた事故である。台座を持ち上げたとき、台座から少女の像が倒れ、像に亀裂が入ってしまったのである。連絡を受けた作者は急いで駆け付け、倒れた像と同じ水性樹脂を使用している会員たちの協力で、無事に修復をすることができ、陳列もすることができたのは不幸中の幸いと思いたい。しかし、防げた事故でもあったかもしれない。

作者は「台座と像の接点が確実ではなかった。会員の皆さんの指導で勉強になった」と言ってくれてはいるが、搬入された作品の保管、管理を問われたとき、彫刻部として弁明の余地がないように思われる。運営の責任者として、深く考えさせられた事例となった。

彫刻の展示会場の入口は以前あった衝立が無くなったことで、入口から遠くまで見渡せるようになり、広々とした豊かな展示会場になった。そして鑑賞者の目線を考慮しながらの展示は、作品からのメッセージが明確に聞こえるようになったと思われる。

展示会場を見渡すと、会場の粗(ほぼ)中央に、人だかりがしている作品があった。

（この作品は鑑賞者の接触によって変化する作品です）との作者のコメントが添えてあった。いつも数人の子供たちが、ときには大人たちも夢中になって、小さなアヒルを動かす姿は、とても微笑ましく、アヒルと戯れる人たちの顔は実に素情が豊かであった。

作者曰く、創作の体験を共有できたらと・・・。

かつて二科会の彫刻は、表現領域が一番広いと、いわれたことがあった。石・木を素材としている作家は、実材からの声が聞こえているかのように、美しいフォルムを作り出している。木から縫い包みを掘り出した若い女性の彫刻家、張子で馬を表現した作家も女性だった。二科の彫刻部はおもしろいと新カテゴリーも認知されてきたようだ。

二科展の最後の三日間の鑑賞者は大変多かった。

彫刻部　カテゴリー30

彫刻部展示室

第109回二科展 受賞作品 ― 制作の視点

不安と対話　西村 貞雄

文部科学大臣賞　西村 貞雄

私の作品は、不安と対話という事柄からの発想を基にしている。二つの球体の中に人物や流動的な波や風を配し構成している。

このごろ身近なことに不安を感じる。気候変動による自然災害や世の中の情勢等、何となく落ち着かない気分にさせることばかりである。心の持ち方や対話することで心が和むことをもとに、造形的に思案した。角がなく丸みを帯びた形に風や波を使い、緩やかな雰囲気を醸し出すことを作品に込めた。

ひとつの風景　日置 万里

ローマ賞　日置 万里

同じ時や場所を共有していても、思いが全く違っていたり、見つめている方角が違っていたり、それでも確かに繋がりはあるのだと、穴を開けてみた。その中にはなにがあるのだろう？とても快適とは言えない酷暑のアトリエで、作ることの楽しさを再確認した年でした。

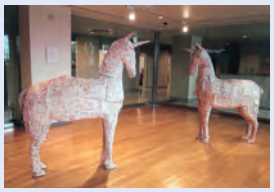
跳躍　本多 紀朗

会員賞　本多 紀朗

本作品は、動物をモチーフにした自刻像である。制作過程で環境に翻弄されることもあるが、制約を振り払い、子供のような歓びと衝動に身を任せ作り続けたい。形は生き様から力強く立ち現われ、あらゆる障壁を飛び越え、突き進む意志の姿を現した。

彫刻部　新会員紹介

岩崎 花菜子



もう1つの世界

初出品の1996年から月日が経ちましたが、二科展の存在があったからこそ制作を続けることができました。推挙をいただき、背中を押してもらっている感じです。そのことに感謝して、これからも自分の思う彫刻の道を歩み精進して参ります。

第85回　記念賞／第90回　彫刻の森美術館奨励賞
第98回　会友推挙／第107回　会友賞
第109回　会員推挙

丸山 恵美

Cosmic Storm

大学卒業後に制作を続けていくことは難しいことでしたが、多くの方に励まし支えていただいてこれまで続けることができました。

作品を見てくださった方の気持ちに沿った様々な物語が広がるような作品を目指し、制作できることに感謝して更に頑張りたいです。

第92回　彫刻の森美術館奨励賞／第95回　会友推挙
第108回　会友賞／第109回　会員推挙

第109回二科展 受賞作品寸評

るすばんばんばん　与島　雪

よろい　友國　華

会友賞　与島　雪

素材のクスノキは作品に柔らかさとライブ感を与えてくれて、いつも制作を後押ししてくれます。また、私の制作に欠かせないのはいきものです。モチーフとして、相棒として、いつもそこにいてくれるそのこたちをかわいく表現したいという思いで制作しています。

受賞作品寸評

彫刻の森美術館奨励賞　友國　華

彫刻部の会場入口から奥に位置する所に、それまで見てきた作品とは違った雰囲気の漂う黒い大きな物体が出現し、驚きと共に一瞬のたじろぎの時が来るであろう。それは作者の隠しようも無い程の制作への意欲が、まるで美術館の床を突き破りやがて突出した姿が現れた事から来るのであり、迫力ある作品である。

（小田 信夫）

important　梅田 勝裕

※個人差があります　笹井 南海

横たわる遥か　吉田 香世

特選　梅田勝裕

袖をまくった着衣のトルソは石膏で造られ、量感に溢れる。頭部はテラコッタで、貌は巧みに穿たれた眼と、微かに開いた唇が静謐の対話へと誘う。過剰な演出に頼らない直球勝負の造形。素材の融合によって表現はさらに深まる。今後の展開が楽しみである。

（鷲崎 直子）

特選　笹井南海

ダウジングをテーマにした立像は、確かな表現技術で観る人を魅了する。簡略化した形、色彩の深い青やグレーは北欧の景色を思わせクール。作者は未来の出来事、或いは自身の内面への洞察、彫刻の真髄を探ろうとしているのか。若い世代の今後の展開が楽しみです。

（津田 裕子）

特選　吉田香世

現実の大きさを超えた形態は不思議な現象を見るものに与えてくれる。巨大な巻貝の開口部から制作時の打撃音や溶接の音が聞こえてくるようだ。鉄板を叩きながら求める局面を作り、それをパーツごとに溶接して形作る。極めてオーソドックスな手法であるがそれゆえに作者の渾身の力業を感じられて心地良い。

（前田 耕成）

NIKA 109th 2025 event memo

彫刻部 オープニングトーク　9月3日　10:30～　彫刻部展示室

授賞式・懇親会　9月3日　12:00～　3階講堂

内閣総理大臣賞　北村美佳

文部科学大臣賞　西村貞雄

絵画部 会員賞

美術館講堂会場にケータリングも届き

西先生　青春を歌う

初入選の方も参加して

絵画部 作品研究会　9月3日　11:00～

石倉会員

入佐会員・大脇会員

鶴岡会員・瀧澤会員

森岡理事

堀尾会員・米田(整)会員

渡辺会員・古保木会員

浅賀会員

寺田会員・岩田理事

彫刻部 ギャラリートーク　9月7日　14:00〜

特選・会友推挙　梅田勝裕さん

日置会員

会友推挙　岩瀬公子さん

島田常務理事

絵画部 ギャラリートーク　9月13日　13:00〜

ギャラリートーク開始

中島常務理事

会員推挙　さとうのりこ会友

自作を語る
「病む人の陰と影と翳」

中島 敏明

二科展には第57回展から半世紀発表してきました。今回の作品の根底には避けて通れない過去の出来事があり、その時の制作テーマがエレジーでした。

『elegy』つまり悲哀とは、あわれ悲しむことですが、その象徴的形象を探るために、モデルを妻に頼み模索をしながら描いていました。

思い起こせば２００１年の８月、第86回展の作品「ウズクマル」のモデルを終えた妻が身体の不調を訴え検査入院し、その翌日、病院から電話があり、「今朝ほど奥様がお亡くなりになりました」の知らせ。駆け付けるとそこには「これがあなたが追い求めていた『elegy』よ」と究極の答を教えるが如く、不帰の客となってしまっていました。

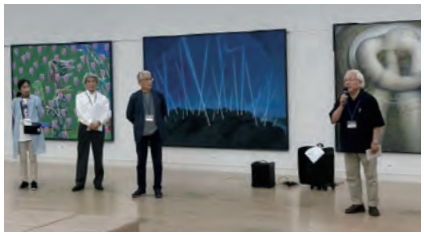
茫然自失の半年が過ぎ、「慈しみ」と刻んだ墓碑を建てました。アトリエには喪失感の中、無心で描いた娘を抱く妻の魂が何かを訴えていました。作品は墓碑同様「慈しみ」と題して第87回展に搬入しました。二科展が始まったある日、一通の電報が届き、仏の念動か総理大臣賞の通知でした。このような過去を思い起こして109回展の作品を制作しました。

「病む人の陰と影と翳」これは丸めた形象人体の背後に光を当て逆光の前面に輪廻や宇宙など無限の概念を想起させるメビウス図形の腕を描き、その周りには人体のメカニズムを超越した衆生の世界を陰と影と翳の三つのカゲで表現しました。形のない人生の翳を感じて頂ければと思っています。

作品は一旦アトリエから出ますと、鑑賞者に委ねられ、そこには見るためのマニュアルも答もなく、鑑賞者が自由に見て感じたそれが答なのですが、見る人の見る時の心理状態や環境などでも表れ方が変わります。我々は鑑賞者を視覚の冒険や心の旅に誘うだけなのです。

4部門代表による閉会式　9月15日　14:00〜

写真部 角尾抽臣子理事長
デザイン部 河地知木理事長
彫刻部　吉野常務理事
絵画部　生方理事長



■休憩室展示企画

2F 休憩室A・Bにて・・・
2025春季二科展「NIKA+nika/S20号」コンクールの受賞・佳作の選抜作品を展示。

3F 休憩室A・Bにて・・・
二科展を支える巡回展・全国支部の活動
各地の二科展ポスターなどの展示物で構成しました。

ローマ賞 研修報告

イングランド南西部 ストンヘンジ草原に立って

中村 淳子
（第108回展 ローマ賞）

今回、訪れる目的地にストンヘンジを選びました。何故なら私が現在、作品テーマとしている（氣）を感じる空間と思ったからです。この地は二十代から一度は訪れてみたいと思っていた所ですが、今まで縁が無かった事もあります。

ストンヘンジはイングランド・ソールズベリー平野にあり、紀元前約四千年前より何千年もかけて作られた謎の多い巨石遺跡です。現在は石で作られていますが、過去には五十六本の杭が立てられ木の祭壇もあった様です。

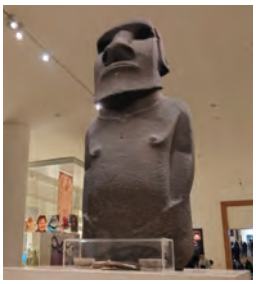
ビジターセンターからはシャトルバスに乗りストーンサークルに向かいました。祭壇のある北西サークルに行く途中、ヒールストーンと呼ばれる高さ六メートルの玄武岩の巨大な石が目に入ってきました。この石の位置は正確に計算されて立っていて最も重要な石の様です。サークルに近づくにつれて遺跡全体の姿が見えてきました。今は遺産保護の為サークルの中には入れませんでしたが、三個の巨石を門の様に並べた組石には感動、凄く圧倒されました。又、環状列石は長い年月により今日全て現状を留めてはいませんが、使用されている石、ブルーストーンは遠いプレセリ鉱山でしか産出されない希少な石でパワーを持つ石と知り驚きました。今もこの場に巨石が当時のまま立ち（氣）を放っている様子はやはりパワーを宿す超古代の聖地でした。ストーンサークル全貌の模型や説明パネル。三百六十度の画角で見られるスクリーン。太陽の動き。石器時代の家屋の再現等も見応え十分でした。

ロンドンでは世界中から集められた珠玉のコレクションが見られる大英博物館へ。彫像モアイの表裏の姿、ロゼッタストーン、パルテノン神殿の彫刻群等々主な彫刻を見ました。一番見たいと思っていた建築家ノーマン・フォスター氏デザインのグレートコートは、古典建築とハイテク建築が融合し、天井は三千枚ものガラスで覆われ、とても美しかったです。ナショナルギャラリーではルネッサンス期絵画の名画、西洋絵画を堪能。街のギャラリーでは現代アートとは何かと考えさせられました。

ドキドキしながら過去の空間へ直に足を踏み入れ、沢山のインスピレーション、力をもらった旅。新たな制作へのおもいを胸に、この地を後にしました。

ストンヘンジ巨石

ストンヘンジ ビジターセンター内



モアイ像（大英博物館）

大英博物館グレートコート

古代ギリシャ パルテノン神殿の一部（大英博物館）

第109回二科展 巡回展スケジュール

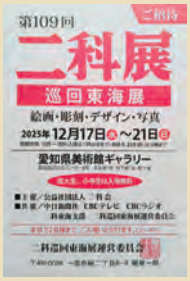
◆**大阪展**
令和7年10月29日～11月9日
大阪市立美術館

◆**京都展**
令和7年11月25日～11月30日
京都市京セラ美術館

◆**東海展**
令和7年12月17日～12月21日
愛知県美術館ギャラリー

◆**鹿児島展**
令和8年1月11日～1月18日
鹿児島県歴史・美術センター黎明館

◆**福岡展**
令和8年1月27日～2月1日
福岡市美術館



2026春季二科展へ向けて

案内葉書ができました

春季二科展は常に新たな価値観を創造する実験の場としています。
会員と選抜作品（６つの個含む）、S20号コンクールの作品展示を致します。

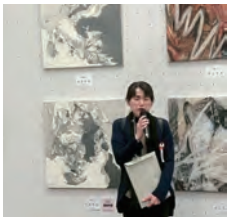
・**６つの個選抜展**
第109回二科展の内閣総理大臣賞・東京都知事賞・二科賞・SOMPO美術館賞・パリ賞・上野の森美術館賞の受賞者６人によるそれぞれの表現を展示する春季展特別企画です。

・**「NIKA+nika/S20号」コンクール　作品公募**
S20号コンクールも３回目となり、さらに広がりを見せています。応募作品は厳選の状況ですが、2026春季展ではさらにより多くの可能性を求めて展示室の拡充を致します。
新鮮な展示、新鮮な作品で春季展の風となるよう、ご期待ください。
コンクール最優秀賞受賞者は中和ギャラリー企画展、また佳作作品、来場者投票による
オーディエンス賞など受賞作品は、国立新美術館の第110回記念二科展に展示致します。

2026春季二科展　S20号 応募規約 ➡

「NIKA+nika/S20号」最優秀賞　笹島裕美　中和ギャラリー個展

2026年６月23日（火）～28日（日）　**小展示室では受賞者中選抜10名の小品展**



2026春季二科展「NIKA+nika/S20号」最優秀賞、第109回二科展会員推挙
春と夏の快挙の笹島裕美さんに個展を前にお話を伺いました。

Q、この度の個展には、どのような準備で臨まれていますか？
・S20に出品した鉛筆を画材としたモノクロ作品に、さらに発展形としてミクストメディアなど新たな実験を加え、自分だけでは用意できない個展の発表の場を得て、有り難い機会と捉えて進めています。娘にも私のチャレンジする姿勢を見せることで、好きなことを通して自由に生きて欲しいという思いを伝えたいです。

Q、笹島さんの作品には独特のテーマ性を感じますが…
・以前から自分と社会の関わりで感じるものをテーマに描いていましたが、子供を持って、成長していく過程でリトルモンスターのような子供の個としての他者と自分、育児の中で感じる愛情、不安、葛藤といったものをテーマとして…例えばチャックは開けてみないと何が出るかわからない、外からは内なる葛藤が見えないといったものを表現として捉えようとしています。

Q、S20企画に出品にあたってどんなことを考えられた？
・もともとSサイズは好きですが、本展ではサイズの制約で出せなかったので、S20企画ができて初回からワクワク期待しました。その年は春季展の個展ブース企画に選抜され、自由な作品発表の機会という事で鉛筆の濃淡、多様な線が好きだったモノクロ作品で発表し、その手応えを感じて本年の春季展S20では大作に見劣りしない作品としてのクオリティを考え臨みました。

Q、春季展S20企画について出品者としてどのように思われますか？
・S20はまだ大作を描くには躊躇する人も自由な素材でチャレンジしてもらえる場で、出す人も会としても新しい機会として良い企画なので長く継続があれば良いと思います。二科本展展示やギャラリー個展など受賞者に発表の機会があるのも出品者のモチベーションになります。

2026春季二科展選抜出品予定者

■絵画部

（個展選抜）
北村　美佳（会員・内閣総理大臣賞）
茶谷　弥宏（会員・東京都知事賞）
猪立山 三鈴（新会員・SOMPO美術館賞）
楠本 加津江（新会友・上野の森美術館奨励賞）
大山 カリーナ（一般・二科賞）
瀬川 ゆかり（一般・パリ賞）

（会友）
前田　友幸［鹿児島］　服部由美子［東京］
田村　忠男［新潟］　前　友洋［東京］
横山　杏子［新潟］　益原　礼子［広島］
朝岡　幸子［茨城］　丸田　洋一［千葉］
小野寺さゆり［宮城］　三輪　修［宮崎］

（一般）
白石　一宏［宮城］
杉森　修［栃木］
竹川　美里［北海道］
中村たみ子［宮城］

■彫刻部

（会友）
与島　雪［富山］
梅田　勝裕［東京］

（一般）
友國　華［大阪］
笹井　南海［石川］
吉田　香世［沖縄］

◇二科ショップ・チャリティー報告

彫刻野外展示場に面した1階休憩室C・Dの二科ショップでは、図録・会員作品絵葉書の販売、あわせて4部門会員協力による小品のチャリティー作品の展示販売を致しました。
売り上げは下記各所に寄付できましたことを、ご協力の皆様に御礼と共にご報告致します。

・石川県「文化財課」	250,000円
・沖縄県首里城歴史文化継承支援募金	188,000円
・NHK厚生文化事業団	126,000円

絵画部会員
石黒　厚子 氏

二〇二五年八月二十三日逝去
享年77歳

略歴
一九九〇年　第75回展記念賞
一九九二年　第77回展会友推挙
一九九五年　第80回展会友賞
一九九八年　第83回展パリ賞
二〇一六年　第101回展会員推挙
二〇一五年～二〇二五年　二科秋田支部 支部長

Sen律（咲く）　第108回展出品作

絵画部会友
小沢　圭司 氏

二〇二五年七月十五日逝去
享年77歳

略歴
二〇〇六年　第91回展特選
二〇〇九年　第94回展会友推挙

絵画部会員
鬼頭　恭子 氏

二〇二五年九月十四日逝去
享年91歳

略歴
一九九〇年　第75回展特選
一九九二年　第77回展会友推挙
二〇〇三年　第88回展会友賞
二〇〇六年　第91回展会員推挙
二〇一五年　第100回展会員賞

風の刻'22 アレグリアス
第106回展出品作

絵画部会友
渡辺　弘 氏

二〇二五年八月三日逝去
享年102歳

略歴
一九七二年　第57回展特選
一九八四年　第69回展会友推挙

彫刻部会員
浅草　義治 氏

二〇二五年六月十五日逝去
享年76歳

略歴
一九九三年　第78回展特選
一九九七年　第82回展会友推挙
二〇一六年　第101回展会友賞
二〇二二年　第106回展会員推挙

街かど　第107回展出品作

事務局だより

令和7年公益法人制度改正により、外部理事・外部監事の設置が必要となり、来年の定時会員総会で承認を受ける事になります。現二科会定款5章22条役員定数の変更を承認後、役員改選の承認となります。

昨今、委任状に関する議題が検討され、次年度は現在のままでの方向ですが、議案毎に承認を得る方法導入は可能か、スマホでQRコード読み取り電子による委任状導入はどうか等検討されております。国勢調査もスマホで回答できる時代となりました。良い悪いは別として、時代はスマホ操作一つで便利になっていくのを感じます。

第109回二科展では新企画「My choice on 3F」として3階限定のオーディエンス賞を開催しました。最多得票数を得たのは愛知県26歳の鈴木悠大さん。ラグビーの事故で生死を彷徨い、精神的にも辛い時期に励まされたのが動物園のライオン（Lion E）だったそうです。受賞作品式では心に残る温かな感動の瞬間が刻まれました。

来年第110回記念二科展に合わせてリニューアルする二科会公式HPのキャッチフレーズのメッセージは「一生かけて、作家になる。to be an artist」

9月の支援講座で中原史雄先生が最後に受講者に放ったメッセージは「絵筆を持って墓場まで！」メッセージは時に人の心に深く沁み渡り身の引き締まる思いになります。

直面する一つ一つの事柄を受け止めて、二科会という同じ大きな組織の中で、皆が自分の表現を深めながらポジティブに会の運営に協力し合って行ければと思います。共に前を向いて。

事務局長　塙　珠世

第109回二科展 概要

表1

	入場者	（前回比）
一般当日	5,168人	（628減）
前売り券入場	2,424人	（516減）
高校・大学	865人	（81増）
チラシ割引	808人	（38増）
団体割引	88人	（67増）
企画割引	298人	（54増）
新聞社優待券	117人	（171減）
有料入場者	9,768人	（1,075減）
無料入場者	59,041人	（2,859減）
入場者合計	68,809人	（3,934減）

表2

搬入点数	109回展（昨年比）	
絵画・一般	1,524点	（61減）
絵画・会友	642点	（47増）
彫刻・一般	78点	（5増）
彫刻・会友	20点	（1増）
合計	2,264点	（102減）

表3

展示（遺作含む）	人数（前回比）	点数（前回比）	35才以下 出品者数（前回比）	35才以下 応募・在籍数（前回比）
絵画・一般	604名（4減）	604点（89減）	54名（12増）	55名（12増）
絵画・会友	260名（39増）	260点（10減）	7名（±0）	8名（1減）
絵画・会員	170名（2増）	170点（2増）	－	－
彫刻・一般	68名（9増）	68点（7増）	26名（10増）	27名（10増）
彫刻・会友	20名（1増）	20点（1増）	3名（1増）	3名（1減）
彫刻・会員	53名（2減）	69点（±0）	－	－
展示合計	1,175名（45増）	1,191点（89減）	90名（23増）	93名（20増）

編集後記

表紙は山口委員の新デザイン。◇中島先生のギャラリートークの再録でもある「自作を語る」ご寄稿、会員推挙・笹島会友のインタビュー、作品に作家自身のことばを呼応させる2稿の掲載。作品は言葉で語らなくてもよいという考え方もあるが、言葉の伝達性を得ることで、作品に深く内在する眼と手、身体性をもって立ち上がってくる作家の時間と実在にさらに鑑賞の興味が支えられるのも感じる。中島先生には他の作家・作品についても知りたいとシリーズのご提案もいただいた。語らずにはおられないものがあるか…自らに問いかけてもみる。（N）

編集委員
委員長（絵）寺田　眞
委員（絵）渡辺　倭文子
〃　酒井　とし子
〃　山口　博司
〃　山岡　明日香
〃（彫）角谷　豊明
担当役員　田浦　哲也
野村　みそら

令和七年十月三十日発行
公益社団法人　二科会
〒160－0022
東京都新宿区新宿4－3－15
レイフラット新宿　501号室
電話　03（3354）6646
FAX　03（3354）4768

★ 二科ニュースweb入稿用アドレス：newsnika@gmail.com